

寺
ごよみ

一 月

一 日 除夜の鐘

年頭参り

一四日 法要準備

御正忌

一五日前十時 お講

午後一時 法要

一六日前十時 お講

午後一時 法要

講師：文殊康明師

福井・善能寺副住職

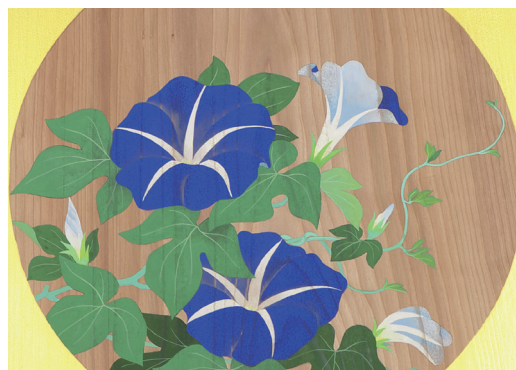
年会費について

平成二十九年度より年会費は一万一千円お願いしております。どうぞよろしくお願い致します。

寺 報
善 巧
ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富 山 県
黒部市宇奈月町浦山 497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765)65-0055
FAX (0765)65-0975
http://www.zengyou.net



親鸞聖人の祥月命日

御正忌

一月十五日、十六日

文化庁と北陸三県が連

携した「とやま工芸ツア-」の団体をお迎えした折に、天井画制作者の清河恵美さんへこんな質問がありました。

「どの花が一番好きですか？」

善巧寺の内陣天井画は、二十八種類の花木が描かれています。そ

の中で、描かれたご本人はどの花が特に思い入れがあるのか知りたかったのでしょうか。清河さんはこう答えられました。

「どれが一番というのはありませんよ。どの花もそれぞれに素晴らしいです。」

一枚一枚、精魂込めて描かれている清河さんだからこそ説得力のある言葉として響きます。そして、極楽浄土が説かれる阿弥陀経の有名な一説「青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」を思い起こされます。青色の

どの花が好き？

花は青のままに光輝き、黄色の花は黄色のままに光輝き、赤い花は赤いままに光輝き、白い花は白のままに光輝いている。どの花も優劣はなく、それぞれに光輝いているという仏さまの眼差しです。清河さんはさらに続けてこう言われました。

「花はそもそも人のために咲いているんじゃないんです。虫のために咲いてるんですよ。」

このお答えにさらに唸りました。道理になったお答えであると同時に、自分視点ではなく、花の視点で答えられたことにハッとさせられました。仏教でも仏さまの視点を知らされることによって、自分心の私の姿が浮き彫りになってきますが、まさにそのような言葉として聞かせてもらいました。

善巧寺住職 雪山俊隆

念仏者の生き方を をいただいて

行信教校講師

天岸浄圓師

第二十五代専如ご門主

は、一昨年の伝灯奉告法要に、ご親教「念仏者の生き方」を示されました。そのおこころを天岸浄圓先生が本願寺新報にご執筆された文章を転載します。

紙面の都合で冒頭部分を割愛してもらっています。心に響いた方は本願寺新報をお取り寄せします。お寺までご連絡下さい。

※ ※ ※

浄土真宗は親鸞聖人より、約八百年の歴史を経ています。本願寺は二十五代、各地の真宗寺院も世代を重ね、ご門徒の多くは、先祖代々により浄土真宗を伝えてこられました。その伝統はあがり、たいことですが、教えより形式が伝わったと

いう現状は改めねばなりません。

あらためて「自分は何ぞ浄土真宗なのか」「なぜ阿弥陀さまなのか」を自身に尋ねてみるべきでしょう。さて、はつきりとした答えがでますか。もし「…？」ならば大問題で、基本からのスタートが必要です。

現代は何を拝んでもよい時代です。しかし、拝む意味がわからなくなつた時代でもあります。一体、拝むとはどういうことなのか、そのヒントが親鸞聖人のご消息のお言葉でした。

ご消息の「すべての人びとを救おう」とは、すべての人びとをしあわせにしようとする事です。人を悲しませず、悲しむ人の苦悩を共に超えようとする心を持つということ。

しかし私は、自分が誰よりもしあわせでありたい。自分に縁の深い人

がしあわせであつてほしい。でも、「すべての人びとを」と考えたことがありますか。おそらく、ないでしょう。

反対に、他人が豊かでしあわせに見えれば、敗北感、劣等感にさいなまれ、心の底に妬みが渦巻いていませんか。逆に自分が豊かであれば、優越感に浸つて他を軽んじてはいませんか。その劣等感と優越感の狭間を行き来しつつ、愛憎に悶える生き方を「不幸」というのです。

そんな私が「すべての人びとを救おう」といわれた仏さまのお心を聞いて、仏さまに心から感動し、尊重し、それを目指す。それこそが阿弥陀さま、仏さまを拝ませていただく、何よりの理由です。それは、自己中心から仏さま中心に生きようと心が転換しはじめた姿なのです。これを「回心」といいます。

さらに「愚かなる無明の酔いも次第にさめ」と、お言葉は続きます。仏さまを拝むことは、今までの自分の生き方がいかに自己中心で、浅ましく、愚かであつたかを知らされることでもあります。そこに「凡夫」という慚愧の意識が生まれます。「凡夫」とは、「恥ずかしい生き方」の自覚です。

その自覚は、必ず恥ずかしくない行動につながります。でなければ、ただ言葉だけで本当は恥ずかしいくないのです。

たとえば、女性がストッキングを履かれるでしょう。外出した時、ふと自分の伝線に気づきました。「アッ」どうします。必ず目立たないように工夫されるでしょう。どうにもならない時には、コンビニで新たに買い求められるでしょう。決してこのままがいいとは思えないでしょう。

恥ずかしい意識は、少

ずつですが恥ずかしくなれないようにと、生き方が変化するはず。変化がまったくないのは「回心」が成立していないといつていいでしょう。心は以前のまま、我がままのまま、無明のままです。ただ、浄土真宗の知識を得たことと、信心とを錯覚したに過ぎません。

さらに「阿弥陀仏の薬をつねに好む身」となると述べられます。阿弥陀さまはお念仏の薬となつて私に届き、私を治療してください。『薬』はのむ（服用する）もので、効能を覚えても効きません。南無阿弥陀仏の薬が無明の愚かさを少しずつさまし、「むさぼり。いかり…」という、身の毒から少しずつ離れさせて、仏さま中心の生き方へと、転換するよう育んでくださいます。それを浄土真宗の「救い」というのです。

報恩講

十月十九〜二〇日

今年もたくさんの方々のご尽力によつて報恩講がつとまりました。清掃奉仕にはじまり、ご案内を兼ねた寺報の配布。前日には、色を付けたお餅「お華束（けそく）」づくりを行います。お華束は、花のない季節に花と見立てて飾り付けたのが始まりだそうです。親鸞聖人のご法事を滞りなくとめさせていただきまし



空華忌

十一月四〜五日

空華忌は第十一代住職僧鎔（そうよう）のご法事です。昨年と同様、住職と副住職が法話を担当してつとまりました。

正信偈に学ぶ

十一月十四日

行信講座「正信偈に学ぶ」の六回目が行われました。毎回、密度の高い実りの多い講義をいただいています。

浄土真宗は「聞法第一」の教えです。当たり前のことですが、何もせずに「救い」はありません。人生を真剣にお考えの方は、ぜひ行信講座にご参加ください。

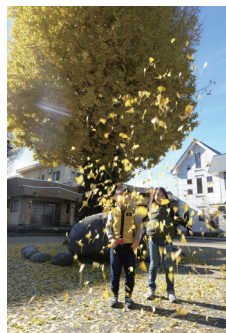
次回は四月十九日です。



お寺座エクストラ

十月十五日

十回目を折り返した今回は、今まで以上に内容を深めて行うため、ゲストをラッパの環ロイさん一組に絞り、事前の打合せ回数を増やして、対談やお経と音楽のセッションに重点を置いて行いました。毎回新しい試みを取り入れることは生みの苦しみですが、それだけの充実感と反響をいただいています。



御正忌

親鸞聖人の祥月命日に
つとまる法要です。

一月十五日（日）

午前十時 お講

午後一時 法要

十六日（月）

午前十時 お講

午後一時 法要

講師：文殊康明師

福井・善能寺副住職

年頭参り

一月一日午前八時～

御正忌準備

一月十四日午前九時

仏婦総会&新年会

二月二十五日

幕のご寄進



参拝者玄関用の幕は、昭和四十八年に清水久一さん（下立愛本）よりご寄進頂いたものを使用していました。近年その老朽化が目立つようになり、同地区の澤木繁夫さんが新調の幕をご寄進頂きました。深く感謝申し上げます。

正月と御正忌をはじめ、年中行事の折に使用させていただきます。

正信偈に学ぶ ～行信講座～

日程：四月十九日（木）

講師：天岸浄圓先生

参加費：二千元（僧侶五千元）



初参式・七五三募集

日程：四月二十三日（日）

午前十時 初参式

午後一時 七五三

参加費：三千元

※お申込みはお寺まで。



寺
ごよみ

二
月

寺
ごよみ

三
月

一日	おこう（浦山）
二日	三日市報恩講
五日	三日市報恩講
六日	三日市報恩講
八日	下立報恩講
九日	下立報恩講
一二日	下立報恩講
一四日	浦山報恩講
一五日	浦山報恩講
一六日	おこう（栃沢）
一九日	浦山報恩講
二〇日	浦山報恩講
二二日	浦山報恩講
二六日	浦山報恩講
二七日	浦山報恩講
二八日	浦山報恩講

合 掌

お参り先では、過疎化や高齢化、少子化の問題がよく話題にあがるので、改めて調べてみました。日本の人口ピークは平成二十年で、富山県は平成十年、黒部市は平成二年だそうです。その開きぶりにも驚かされますが、東京は今も人口が増え続けてピークは平成三十七年と推測されています。黒部と東京の差は三十五年です。我々だいぶ先をいっていますね。

※ ※ ※

登山の時代はだいぶ前に終わり、今は下山の時代真つただ中と言われます。登っている時には気付かなかった植物や生き物に目をやり、慌てて転げ落ちないように丁寧に歩んでいきたいです。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

